

重点的調査観測の候補

※灰色は、調査観測実施済み又は実施中のものを表す。

オレンジ色／黄色は、現在未着手の調査観測対象活断層のうち、各々の指標が1番目／2番目に高い(平均活動間隔においては短い)ものを表す。

活断層名	震度6弱以上 罹災人口(万人)	地震後経過率 (最大)※1	規模 (M)	30年発生確率 (最大) (%)	平均活動間隔 (年)	平均的なずれ の速度 (mm/yr) ※2	備考
屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯 (恵那山-猿投山北断層帯)	660	1.1	7.7	2	約7千2百-1 万4千年	0.2-0.4	
奈良盆地東縁断層帯	650	2.2	7.4	5	約5千年	約0.6 (上下成分)	H25補完調査実施
三浦半島断層群(主部/武山断層帯)	180	1.4	6.6	11	1千9百年-4 千9百年程度	0.9-2.3 (右横ずれ成 分)	相模トラフの海溝型地震と同 時に活動する可能性
富士川河口断層帯	170	ケースa:2より 大 ケースb:1.2	8	ケースa:18% ケースb:11%	ケースa:約150 -300年 ケースb:約1千3 百-1千6百年	約7 (上下成分)	駿河トラフで発生する海溝型 地震に伴って活動すると推定
布田川断層帯・日奈久断層帯 (日奈久断層帯/日奈久区間)	90	2.3	7.5	6	3千6百年-1 万1千年程度	0.7 m (右横ずれ成分)、 0.2-0.5 m (上下成分)	H25年2月改訂 H27に重点候補に追加
森本・富樫断層帯	80	1.2	7.2	8	1千7百-2千 2百年程度	概ね1 (上下成分)	H25年11月一部改訂
糸魚川-静岡構造線断層帯	170	1.2	8	14			重点的調査観測終了 (H17-21)
神縄・国府津-松田断層帯	310	1.1	7.5	16	約8百-1千3 百年	約2-3 (上下成分)	重点的調査観測終了 (H21-23)
上町断層帯	1,120	2より大	7.5	3	8千年程度	約0.4 (上下成分)	重点的調査観測終了 (H22-24)
警固断層帯(南東部)	240	1.4	7.2	6	約3千1百-5 千5百年	南東部0.02 (上下成分)	重点的調査観測終了 (H23-25)
立川断層帯	1,300	2	7.4	2	1万-1万5千 年程度	0.2-0.3 (上下成分)	重点的調査観測終了 (H24-26)
中央構造線断層帯 (金剛山地東縁-和泉山脈南縁)	970 (和泉山脈南 縁)	1.3 (和泉山脈南 縁)	7.7 (和泉山脈南 縁)	14 (和泉山脈南 縁)	約1千1百-2 千3百年	0.1-0.6 (上下成分)	重点的調査観測中 (H25-27)
	500 (金剛山地東 縁)	1.0 (金剛山地東 縁)	6.9 (金剛山地東 縁)	5 (金剛山地東 縁)	約2千-1万4 千年	1.8-3.5 (右横ずれ成 分)	
別府-万年山断層帯 (大分平野-湯布院断層帯/東部)	70	1	7.2	4	約2千3百-3 千年	東部2-4 (上下成分)	重点的調査観測中 (H26-28)

※1 地震後経過率:最新活動(地震発生)時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

※2 平均的なずれの速度 (mm/yr):活断層がずれ動く速さを1年あたりに換算した指標。平均的なずれの速度が大きいほど地震を起こす頻度が高い。